



情報コーナー



●アドバイザースタッフ派遣

幼児・児童・生徒にかかわるいじめ、不登校、集団不応等の問題の解決のため、学校、家庭等にアドバイザースタッフを派遣し、相談・助言・その他の援助を行います。

- ※専門家スタッフ:教育相談、臨床心理学、精神医学等に関する識見及び経験を有する者
- ※学生スタッフ:大学又は大学院に在籍し、心理学、教育学、医学等を専攻している者

○学校への派遣

＜専門家スタッフ＞

いじめ、不登校、集団不応等の子供の理解や対応方法などについての助言 など
(原則として、スクールカウンセラーが配置されていない学校への派遣に限ります。ただし、いじめにかかわる相談等については派遣します。)

＜学生スタッフ＞

集団不応の子供(登校はできるが、教室に入れない子供など)に対する話し相手・遊び相手
(1度の申し込みで、週1回2時間5回派遣します。派遣期間は、事例により継続可能です。)

○家庭への派遣

＜学生スタッフ＞

不登校の子供(まったく登校できず、相談室等に通えていない子供)に対する話し相手・遊び相手
(1度の申し込みで、週1回2時間5回派遣します。派遣期間は、事例により継続可能です。ただし、保護者の在宅時に派遣します。)

青少年リスタートプレイス 高等学校を中途退学し、再スタートしたい方に

高等学校を中途退学した方やその保護者の方を支援するために、平成17年度、当センターに「青少年リスタートプレイス」を設置しました。電話や来所による個別相談や情報提供、関係機関の紹介などを行います。

電話やホームページから登録した方には、通常の電話相談・来所相談のほか、進路相談会の案内、都立高校入学の情報提供、「通信HOP」の送付、「つどい」の開催など、きめ細やかな支援を行っています。

1 対象者	都内在住または在勤で、原則として、高校生相当年齢の者とその保護者
2 相談内容	①高校への編入学、再入学 ②高等学校卒業程度認定試験 ③就労に関すること ④心理的な相談 その他進路全般
3 相談時間	平日 午前9時から午後9時まで 土・日・祝日 午前9時から午後5時まで(年末年始等を除く)
4 相談場所等	電話相談 03-5800-8008 来所相談 文京区本郷1-3-3 東京都教育相談センター内

※『つどい』へのご参加をおまちしております! ※

高等学校を中途退学した方やその保護者の方が集まり、アドバイザーからの助言を受けたり、話し合ったりする場です。

(今後の開催予定日) 8月23日 9月27日 10月25日 11月22日 12月20日 1月24日
毎月第4木曜日 午後2時から4時まで

24時間

いじめ相談ホットライン

- 1 趣 旨 いじめ問題に悩む子供や保護者がいつでも相談できるように、夜間、休日を含め、24時間体制で相談に応じています。
- 2 電話番号 03-5800-8288
(全国统一ダイヤル 0570-0-78310)
- 3 相談員 臨床心理士、教育経験者など。
(必要に応じて、関係機関と連携を図り、解決にあたります。)
- 4 開設 平成19年2月1日



●詳しくは、東京都教育相談センターホームページ <http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp> をご覧下さい。●



広報 **すこやかさん** 第19号 平成19年8月発行

東京都教育相談センター 〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-3
<http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp> TEL 03-5800-8545 FAX 03-5800-8402

子供たちと社会性

東京都教育相談センター 所長 関口 栄一

■センターから見た最近の子供たち

当センターでは、昨年、約3500名の中・高生を対象に意識調査*1を行いました。命にかかわる事件が相次ぐ中で、最近の子供たちの意識を見てみようとしたものです。7割の子供たちは、悩んだとき自分でどうするかを考えており、そのアンケート結果に安心する一方で、対人関係によって支えられていない子供たち(気がかり群)は、危惧される対処行動につながりやすいことも明らかとなりました。

また、2月から開始した24時間対応の「いじめ相談ホットライン」では、夜間帯*2の相談件数が、2月の77件から6月には549件に増加し、5ヶ月間で1,598件となっています。こうしたいじめ問題や不登校のケースを通じて、適切な対人関係を築けないでいる子供たちに気づかれます。

■希薄な対人関係とソーシャルスキル

そこで、本号では対人関係能力に焦点を当てたソーシャルスキルトレーニングを取り上げました。このトレーニングは、特別支援教育でも注目され、当センターの要請訪問でもよく取り上げられるテーマです。

ソーシャルスキルは、「人付き合いの技術」です。学校と社会とのつながりが薄れがちになり、少子化、核家族化が進む中で、社会生活のスキルを身に付ける場である家庭や地域の力が弱まってきています。ネットの中で増幅された感情が行き来する一方、個々人の直接的な接触は希薄になっています。様々な利害がぶ

つかり合う国際社会で、異なった価値観・利害関係をもつ相手と上手につき合う振舞いや、社会生活の様々な場面での説明責任が求められるようになり、大人たちも含めてソーシャルスキルが必要な時代になっています。実社会や各省市で、人間力、就職に当たっての社会人基礎力が強調され、相手の感情を知覚できるEQや成果に結びつく行動特性としてのコンピテンシーなどが注目されることとも符合しています。

■学校で育むものとは

子供たちの生活は、家庭から学校へ、また、学齢が上がるにつれ、より交際の範囲が広がり、社会とのつながりが深まるようになっていきます。教師も意識せずに類似の指導を行っていました。掃除当番や各種学校行事、施設や備品の使い方に至るまで、学校生活のすべてが社会の投影であり、日本の風土を反映しています。教育は、そもそも伝えるべきことを意識化するものですが、ソーシャルスキル・トレーニングも、いままでの無意識な実践について意識化するものといえます。*3

*1 平成17,18年度調査報告「今、思春期の子供たちはどのように生きているのか」(当センターホームページで公開しています。)

*2 夜間帯:24時間対応により拡大した時間帯。午後9時(土日祝日は午後5時、閉庁日は午前9時)～翌日午前9時。

*3 当センターでは、現場に応じて修正すること、時にはトレーニングを中断することも含んで紹介しています。

東京都教育相談センター案内

受付電話番号 03-5800-8008

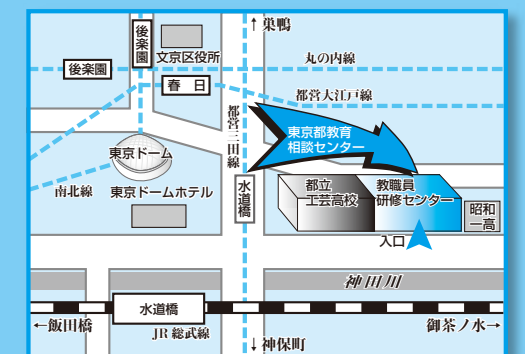
- 電話相談/平日 午前9時から午後9時まで
土・日・祝日 午前9時から午後5時まで(年末年始等を除く)

*上記以外及び閉庁日は、留守番電話及び電子メールにより対応しています。
<ホームページ> <http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>

- いじめ相談ホットライン/24時間受付 03(5800)8288

- 来所相談/午前9時から午後5時まで(平日)
*電話でお申し込みください。
*立川出張相談室(立川市錦町6-3-1)においても応じています。

- 所在地/〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-3



●広報「すこやかさん」第1号～第18号は、ホームページ上でもご覧いただけます。 <http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp> ●



子供たちの対人関係能力を高めるために

～学校で行うソーシャルスキル・トレーニング～

ソーシャルスキル・トレーニング

対人関係を円滑に営むための知恵と技能を学ぶ一連の活動のこと



今なぜ、ソーシャルスキル・トレーニングが求められるのか

学校では、いじめ、不登校、問題行動などさまざまな課題があり、その背景に子供たちの人間関係の形成及び対人関係の発達の未熟さが考えられます。そこで、子供たちの社会性を育て、対人関係を円滑に営むための一つとして、ソーシャルスキルを育てることが重要となります。

ソーシャルスキルは、日常生活における対人経験を通じて学習されます。それを学ぶ基本原理は、①教えられて、②まねをして、③練習して、④結果から学んで、の4つです。ソーシャルスキル・トレーニングは個別、小集団・学級全体でできますが、今回は学級活動で行う場合について考えます。

ソーシャルスキル・トレーニングの進め方

例えば、「上手に聴く」の場合では

① インストラクション(説明)

スキルの内容と意義を話す。

「人の話を上手に聴くことができれば、話している人は気持ちよく話すことができます。上手に聴くためには、どのようなことに気をつけたらよいでしょうか?」と子供に問いかけ、子供から上手な聴き方についての考えを出してもらいます。

② モデリング(見本の提示)

教師がスキルの見本を示し、観察させる。

子供に「今朝あったこと」「昨日のこと」などを1分ほどで話してもらいます。教師は子供から出された話を聴き、上手な聴き方のポイントがわかるように見本を示します。

③ リハーサル(練習)

見本をもとに練習する。

子供は2人ペアになり、聴き方の練習をします。話す人は、「今朝あったこと」などを1分程度で話し、聴く人は、上手に聴くためのスキルを意識しながら話を聴きます。教師は練習している子供を見てまわり、助言します。

④ フィードバック(振り返り)

練習について振り返る。

練習後の感想を出し合います。「話を聞いてもらってどうだったか?」「どうしたらもう少し話しやすいと思うか?」など、教師は一人一人の感想を取り上げます。上手な聴き方を肯定し、評価します。子供の感想を受け止め、上手な聴き方について全体で共有します。

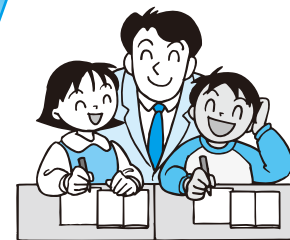
日常生活での指導

ソーシャルスキル・トレーニングで学んだことを日常生活にいかす。

日常の学習や話し合いの中で「この前練習したように相づちを打ちながら話を聴けたね。」などソーシャルスキル・トレーニングで学んだことがいかされていることを評価します。

「相手の目を見る」「体を相手に向ける」「うなづく」などのスキルがあります。子供から考えが出ないときは教師が示します。

話をしてもらった子供に、話してみてどうだったか質問し、スキルの大切さを確認します。また、さらに工夫できることがあるかをたずね、上手な聴き方についての意識を高めます。



2人ペアが役割を交代して繰り返します。教師は1回ごとに上手な聴き方をしていたペアの様子を紹介し、全体で共有できるようにします。

基本的スキル(次のようなスキルがあります。)

- あいさつする
- 自己紹介する
- 上手に聴く
- 質問する
- 仲間を誘う
- 仲間に入る
- あたたく言葉かけをする
- 気持ちをわかって働きかける
- 優しく頼む
- 上手に断る
- 自分を大切にする
- トラブルの解決策を考えるなど

学校でソーシャルスキル・トレーニングを行うときの留意点

- 1 楽しい雰囲気の中で行う。
- 2 学級の人間関係が乱れているときは個別対応から行う。
- 3 教師と子供との間に信頼関係があることが基本となる。
- 4 不安や怒りなどの感情的な問題を抱えているときは、その問題の解決が優先する。
- 5 発達段階を考慮して行う。

東京都教育相談センター
では教職員からの相談を
受け付けています。

電話相談受付

03-5800-8008

